

# 八学大 スポーツ局新設へ

トレーニングに励む八戸学院大女子サッカー部。同部は練習に高校生らも参加させるなどジュニア世代の育成も進めている



八戸市の八戸学院大学（水野眞佐夫学長）が、学内組織にスポーツ局の新設を検討していることが3日、同大への取材で分かった。運動部に所属する学生の学業と競技力向上を支援するとともに、ス

ポーツを通じた地域貢献を強化するのが狙いで、早ければ今春から設ける。同大によると、地方の総合大学で同様の組織をつくるのは全国的にも珍しいという。（月館慎司）

今春にも

## 選手や指導者育成 地域への貢献強化

一般的に大学の部活動は、学生の自主的な課外活動に位置付けられており、学校側との連携が必ずしも取れているとは言えない。このため同大は、運動部の学生のキャンパスライフを充実させ、地域社会へ貢献できる人材の育成を目指し組織的な支援体制を構築しようと、スポーツ局設置を検討してきた。

設置の目的は①学生支援 ②研究体制の構築③社会貢

八戸学院大は、大学スポーツのブランド価値の向上や、学業とスポーツの両立などの支援を目的に、昨年春発足した大学スポーツの統括組織「大学スポーツ協会（UNIVAS）」に県内で唯一加盟。また、活躍が期待される部活動を「強化指定部」に認定して、学業面や資金面で支援するなど、スポーツをキーワードの一つに大学づくりを進めている。

①は学料の教員と部活動の指導者が一体となって、学生が学びとスポーツに取り組み環境づくりをサポートする。②は学生が最大のパフォーマンスを発揮するために、部活動の枠を超えて横断的にコンディショニング法や食事、睡眠などの生活面をサポートして支援するための研究を実施する。

③は学生が子どもたちや高齢者らにスポーツの楽しさを伝えることで、地域のスポーツ振興を後押しする。特に小学校の部活動運営は、教員の働き方改革などから保護者に移行する見通しで、部活学生の派遣による指導援助や、大学施設を開放するなど率先して協力していく方針。25年に本県で行われる国民スポーツ大会などの全国大会や、国際大会で活躍するジュニア世代の選手を育成するスポーツアカデミーの設置も視野に入れている。

スポーツ局は学長直轄の組織で、教員やスポーツ指導者らで構成。昨年春から学内の準備委員会で計画づくりを進め、11月に大学運営会議で設置が承認された。今後、学校法人光星学院の了承を経て、正式に決定する。

水野学長は「本学がワンチームで本県のスポーツ活性化の一翼を担いたい。東京五輪で子どもたちのスポーツ熱が高まると思うので、本県の大学スポーツのリードオフマンとして、選手や指導者を育成する体制の構築を目指したい」と抱負を語った。